



北炭赤間選炭工場跡にて撮影



札幌を拠点に、インスタレーション作品や照明装飾などを手がける、アーティストの菅原由香さん。

おじいさまが住友赤平炭鉱で働いていたという彼女と一緒に、赤平へ。

「炭鉱にまつわる祖父の思い出は、とてもほんやりしている」という菅原さんを、吉田さんと三上さんが温かく迎えてくれた。

菅原：自分が小学生の頃に亡くなってしまった祖父は、住友赤平炭鉱でずっと働いていました。芳形といって、安全灯整備の仕事をしていたそうなのですけど……

吉田：安全灯にいた芳形さんなら知っているよ。

菅原：え、すごい！祖母は今でも赤平に住んでいるのですが、実は、祖母も炭鉱で働いていたということを昨日知って。祖父と職場結婚だったことも初めて聞いたから、びっくりしました。

三上：職場結婚は多かつたですね。炭鉱って男ばかりのイメージがあるかもしれません、炭鉱住宅街の配給所で働いているのは女性だし、炭鉱病院の看護士さんとか、昔はそれこそ給料計算もそろばんなので、そこにも女性がたくさんいました。「人の悪口絶対言うな」とよく言われたものですが、それには職場結婚が多かったことも関係しているんです。悪口を言っていた相手が親戚になつたら、お互い気まずいでしょう？ちなみに配給所は、後に日本商事（ニッショウ）というスーパーになりました。閉山後も赤平に残っていたニッショウはその後ジョイに

なり、今はマックスバリュになっています。

菅原：祖母がいつも「ニッショウ連れていくって」と言うんですけど、何でスーパーのことを「ニッショウ」って言うのかなど、ずっと不思議で。今の話を聞いて謎が解けました（笑）。私は炭鉱が稼働しているところを見ていないので、中でどんなことをしていたのか全然想像つかなくて。子ども心に「おじいちゃんは、すごい仕事をしていたんだ」と思っていたことだけ記憶にあります。

吉田：炭鉱って、石炭をたくさん採つて売ることが最終目的なわけだけど、そこに至るまでに実に多種多様な職種があって。当時の従業員約3,600人のうち、採炭に従事するのは500人くらい。その他の人々は、採炭夫が効率よく安全に仕事をできるようにするために、それぞれ経験と熟練を要する専門部署で働いていた。芳形さんのいた安全灯は、坑内で働くために必要なキャップランプの整備をする部署。深さ800mの場所では地上の光が届かないから、「目が慣れる」ということがないわけ。だから、



- 1 安全灯充電台を前に、おじいさまの仕事に想いを馳せる。  
2 地質断面図を手に、炭鉱のことをわかりやすく解説中。  
3 採炭工場跡の横には、日本一の段数を誇るズリ山階段がある。  
4 なぜか2棟がつながっている住友鉱員住宅。  
5 住友職員住宅。かつて三上さんも住んでいたそう。

安全灯整備は非常に重要な部署だった。常に細かい作業と集中力が必要だから、ベテランじゃないと勤まらない。ある意味匠だね。

**菅原:**吉田さんや三上さんはどんな仕事をしていたのですか？

**吉田:**私は、坑内の測量や地質調査をして図面を作成していく仕事。採炭って、誰も見たことのない場所を掘っていくわけだから、そこは経験からいろいろ予想して図面を引いていく。やりがいのある仕事でしたね。

**三上:**私は採炭に携わった後、坑内保安の仕事をしました。同時に、23歳のときに入った救護隊も20年間続けて。「救護隊に入る人間は、酒9合飲めなければ一人前になれない」という言葉があって、よく飲まれましたね(笑)。

**吉田:**今も昔も、酒は大事なコミュニケーション手段だからね。私も印象に残っているのは……仲間と一緒に懸命お酒を飲んだことかな(笑)。

**三上:**人付き合いも、すごくフランクでしたよね。炭鉱住宅に住んでいたときは、出かけるときに、家に鍵をかけたことなんてなかったですから。何かあったとき



#### information

##### 菅原由香

1979年札幌生まれ。工芸美術学科卒業後、作る過程に魅せられ様々な現場へ頭を突っ込み、今は「よいながめ工場」の工場長として、作品などを制作している。

<http://suuhato.jugem.jp/>

再版したらいいな

# イラスト集「保安のしるべ」

今回ご紹介するものは、赤平市炭鉱歴史資料館に展示してあるイラスト集『保安のしるべ』(1966年通商産業省鉱山保安局※発行)の改訂版(1985年 鉱業労働災害防止協会発行)。九州や北海道の各炭鉱からもらった意見をもとに作成された内容は、保安がベースにありながらも、当時の生活文化についての記述もあり必見!『保安のしるべ』は炭鉱歴史資料館の資料室があるので、ぜひご一読を。本誌最後のページにも、いくつか抜粋したものが掲載してあるのでご覧あれ。

※:現原子力安全・保安院



入坑時には、換身を必ず受ける。タバコ、マッチ、ライター類の持ち込みは厳禁!

坑内には、万が一事故が起きた場合に備え、空気供給設備(救急ハーブル)が設置されていた。



入坑前に準備体操  
腰部捻挫(腰痛)防止に努めましょう



掘削は、「ホーベル」や「カッター」と呼ばれる大型機械で一気に。

入坑前には必ず準備体操。坑内での作業は、腰痛との戦いだつたそう。



『保安のしるべ』  
発行元:  
鉱業労働災害防止協会